

1 集団検診

1 調査目的

がん検診における発見がん患者の精密検査結果の詳細を把握することにより、検診の評価を行い、精度管理の維持・向上を図る。

2 調査対象

平成29年度の出張型住民検診における胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診受診者のうち、精密検査結果が「がん」または「がん疑い」と報告のあった者

3 調査内容

調査内容は、当事業団が実施した胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診における発見がん患者の精密検査結果および治療状況等とし、各がん取り扱い規約に基づいた内容について更なる詳細結果（報告）を求めた。

1] 取得方法

調査依頼先に対象者の発見がん追跡調査票を書留にて郵送し、回収した。

2] 調査依頼先

対象者の精密検査結果報告が提供された医療機関、または紹介先医療機関

3] 調査期間

初回調査：平成30年9月～10月

再調査：平成30年11月～12月

再調査は、以下の場合に実施

- (1) 初回調査の結果、転院が判明した者
- (2) 初回調査後、新たに精密検査結果が「がん」または「がん疑い」で戻ってきた者

平成29年度出張型住民検診における発見がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 平成29年度事業団における発見がん調査結果

	胃がん	肺がん		大腸がん	子宮頸がん			乳がん	前立腺がん
		単純X線	ヘリカルCT		細胞診のみ	HPV併用	ASC-US時 HPV併用		
受診者数	49,075	79,268	1,091	77,485	1,397	8,556	29,760	51,261	27,029
要精検者数	3,867	1,167	29	4,049	38	489	608	2,074	2,240
要精検率(%)	(7.9)	(1.5)	(2.7)	(5.2)	(2.7)	(5.7)	(2.0)	(4.0)	(8.3)
精検受診者数	3,093	981	22	2,786	31	421	490	1,818	1,526
精検受診率(%)	(80.0)	(84.1)	(75.9)	(68.8)	(81.6)	(86.1)	(80.6)	(87.7)	(68.1)
追跡調査回収率(%)	(97.3)	(98.0)		(96.4)	(93.1)			(98.1)	(97.3)
発見がん数	54	61	1	113	0	8	12	121	178
がん発見率(%)	(0.11)	(0.08)	(0.09)	(0.15)	(0.00)	(0.09)	(0.04)	(0.24)	(0.66)
早期がん割合*(%)	(76.9)	(43.1)	(0.0)	(56.2)	-	(75.0)	(66.7)	(76.9)	(85.8)
陽性反応適中度(%)	(1.4)	(5.2)	(3.4)	(2.8)	(0.0)	(1.6)	(2.0)	(5.8)	(8.0)

*早期がん割合は、早期・進行のstageが不明であった者を除いて集計した

2 平成29年度 栃木県におけるがん検診実施状況 (栃木県健康診査実施状況調査より)

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん (指針方式)	乳がん (指針外方式)
受診者数	85,944	170,418	171,981	88,402	80,132	7,164
要精検率(%)	6.03	2.06	5.92	2.00	4.52	2.47
精検受診率*(%) (平成28年度確定)	79.9	81.7	69.7	83.8	88.6	83.7

*平成29年度の精検受診率は未発表のため、平成28年度確定値を掲載

3 平成29年度 日本対がん協会全国集計におけるがん検診実施状況 (住民) (日本対がん協会がん検診の実施状況より)

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん
受診者数	2,042,887	3,283,805	2,537,532	1,275,963	1,261,551	440,619
要精検率(%)	6.35	2.00	6.07	1.50	4.47	6.34
精検受診率(%)	78.1	78.5	68.7	83.7	91.0	61.7

4 がん検診に関する事業評価指標と許容値及び目標値 (がん検診の事業評価に関する委員会報告書より)

	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん	
精検受診率	許容値	70.0%以上	70.0%以上	70.0%以上	80.0%以上	
	目標値	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	90.0%以上	
要精検率	許容値	11.0%以下	3.0%以下	7.0%以下	1.4%以下*	11.0%以下*
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.03%以上	0.13%以上	0.05%以上*	0.23%以上*
陽性反応適中度	許容値	1.0%以上	1.3%以上	1.9%以上	4.0%以上*	2.5%以上*

*乳がん検診、子宮がん検診の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度は参考値とする

平成29年度 出張型住民健診における発見胃がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

【胃X線検査】

1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数(%)
男	21,514	2,186 (10.2)
女	27,561	1,681 (6.1)
総数	49,075	3,867 (7.9)

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*																	総 数	
	早 期 が ん	進 行 が ん 疑 い	食 道 が ん	そ の 他 の 悪 性 腫 瘍	粘 膜 下 腫 瘍	胃 潰 瘍	胃 潰 瘍 痕	十 二 指 腸 潰 瘍	十 二 指 腸 潰 瘍 痕	胃 ポ リ プ	異 型 上 皮	萎 縮 性 胃 炎	そ の 他 の 胃 炎	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し	精 検 未 把 握	精 検 未 受 診		
男	30	10	8	6	1	36	50	119	12	39	166	5	781	174	98	134	516	1	2,186
女	9	2	9	0	1	70	23	32	11	31	219	4	631	143	69	164	263	0	1,681
総数	39	12	17	6	2	106	73	151	23	70	385	9	1,412	317	167	298	779	1	3,867

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは、精検を受診していても不適切な精検が行われた者。または、精検未受診が判明している者。

3 発見がん追跡調査結果

1) 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回収数(%)
		詳細把握 (b)**	がん以外 (c)***	そ の 他 (d)****		
男	53	0	0	0	53	52 (98.1)
女	21	0	0	0	21	20 (95.2)
総数	74	0	0	0	74	72 (97.3)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等。

2] 調査結果内訳（調査回収数及び調査前に発見がんの詳細を把握していた数を合せた詳細）

	発見がん			食道がん (%)	良性疾患 (%)	異常なし (%)	未確定 (%)	追跡不能 (%)
	早期(%)	進行(%)	不明(%)					
男	33 (62.3)	9 (17.0)	2 (3.8)	1 (1.9)	4 (7.5)	0 (0.0)	3 (5.7)	1 (1.9)
女	7 (33.3)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (38.1)	0 (0.0)	2 (9.5)	1 (4.8)
総数	40 (54.1)	12 (16.2)	2 (2.7)	1 (1.4)	12 (16.2)	0 (0.0)	5 (6.8)	2 (2.7)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)	発見がん数(%)
39歳以下	223	13 (5.8)	10 (76.9)	0 (0.00)
40～44歳	1,353	77 (5.7)	59 (76.6)	0 (0.00)
45～49歳	1,253	79 (6.3)	48 (60.8)	0 (0.00)
50～54歳	1,097	89 (8.1)	64 (71.9)	2 (0.18)
55～59歳	1,390	125 (9.0)	92 (73.6)	2 (0.14)
男 60～64歳	2,833	304 (10.7)	232 (76.3)	2 (0.07)
65～69歳	5,906	667 (11.3)	506 (75.9)	7 (0.12)
70～74歳	4,380	490 (11.2)	393 (80.2)	16 (0.37)
75～79歳	2,630	293 (11.1)	233 (79.5)	9 (0.34)
80歳以上	449	49 (10.9)	37 (75.5)	6 (1.34)
計	21,514	2,186 (10.2)	1,674 (76.6)	44 (0.20)
39歳以下	428	14 (3.3)	13 (92.9)	0 (0.00)
40～44歳	2,654	78 (2.9)	68 (87.2)	0 (0.00)
45～49歳	2,417	80 (3.3)	65 (81.3)	0 (0.00)
50～54歳	2,243	110 (4.9)	88 (80.0)	1 (0.04)
55～59歳	2,835	154 (5.4)	128 (83.1)	0 (0.00)
女 60～64歳	4,387	278 (6.3)	233 (83.8)	3 (0.07)
65～69歳	6,229	444 (7.1)	382 (86.0)	5 (0.08)
70～74歳	4,045	300 (7.4)	250 (83.3)	0 (0.00)
75～79歳	2,125	206 (9.7)	177 (85.9)	1 (0.05)
80歳以上	198	17 (8.6)	15 (88.2)	0 (0.00)
計	27,561	1,681 (6.1)	1,419 (84.4)	10 (0.04)
総数	49,075	3,867 (7.9)	3,093 (80.0)	54 (0.11)

4] 発見がんの詳細

深達度	早期		進行				不明
	M	SM	MP	SS	SE	SI	
男	20	13	1	3	5	0	2
女	7	0	0	1	2	0	0
総数	27	13	1	4	7	0	2

※以下の表 5]～11] は深達度不明の2名を除き集計した

5] 早期・進行別発見数

	深達度	発見数	総数 (%)
早期	M	27	40 (76.9)
	SM	13	
進行	MP	1	12 (23.1)
	SS	4	
	SE	7	
	SI	0	
総数		52	52 (100.0)

6] 肉眼的分類別発見数

肉眼的分類		発見数
	II a	15
	II a+ II c	8
0型	II b	1
	II c	15
	II c+ II b	1
1型		1
2型		4
3型		6
5型		1
総数		52

7] Stage (進行度) 分類別発見数

Stage (進行度)	発見数
I A	37
I B	2
II A	1
II B	5
III A	4
III B	1
III C	2
総数	52

8] 部位 (壁在) 分類別発見数

	早期	進行	総数
前壁	7	0	7
後壁	10	3	13
大彎	8	2	10
小彎	14	7	21
全周	1	0	1
総数	40	12	52

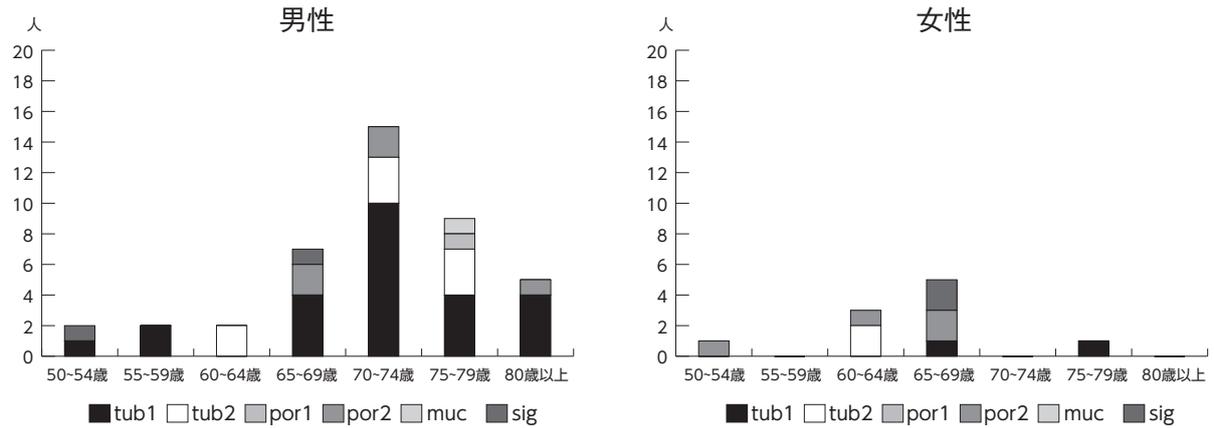
9] 部位 (UML) 分類別発見数

	早期	進行	総数
U	4	2	6
UM	0	1	1
MU	2	2	4
M	11	4	15
ML	3	0	3
LM	0	1	1
L	20	2	22
総数	40	12	52

10] 組織型分類別発見数

組織型	発見数
tub1	27
tub2	10
por1	4
por2	6
muc	1
sig	4
総数	52

図1 年齢別組織型分類



11] 治療分類別発見数

	発見数
外科手術	21
腹腔鏡下手術	11
内視鏡的治療	20
総数	52

12] 初回受診、非初回受診別発見数

	性別	受診者数	要精検者数	精検受診者数(%)	発見がん内訳			発見数(%)
					早期(%)	進行(%)	不明	
初回受診	男	4,155	520	374 (71.9)	6 (75.0)	2 (25.0)	0	8 (0.19)
	女	5,733	400	338 (84.5)	2 (66.7)	1 (33.3)	0	3 (0.05)
	計	9,888	920	712 (77.4)	8 (72.7)	3 (27.3)	0	11 (0.11)
非初回受診	男	17,359	1,666	1,300 (78.0)	27 (79.4)	7 (20.6)	2	36 (0.21)
	女	21,828	1,281	1,081 (84.4)	5 (71.4)	2 (28.6)	0	7 (0.03)
	計	39,187	2,947	2,381 (80.8)	32 (78.0)	9 (22.0)	2	43 (0.11)
総数		49,075	3,867	3,093 (80.0)	40 (76.9)	12 (23.1)	2	54 (0.11)

※早期・進行割合は深達度不明2名を除いた割合
 ※平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、
 初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も胃がん検診を受診していない者
 非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上胃がん検診を受診している者

【胃がんリスク検診】

1 検診実施状況

1] 判定区分

	異常認めず		要二次検査	
	A群	B群	C群	D群
ペプシノゲン検査	-	-	+	+
ヘリコバクター・ピロリ抗体検査	-	+	+	-

2] 判定区分内訳

年齢	受診者数	A群(%)	B群(%)	C群(%)	D群(%)	B+C+D群(%)
39歳以下	443	374 (84.4)	55 (12.4)	13 (2.9)	1 (0.2)	69 (15.6)
40～44歳	830	696 (83.9)	95 (11.4)	29 (3.5)	10 (1.2)	134 (16.1)
45～49歳	652	543 (83.3)	85 (13.0)	19 (2.9)	5 (0.8)	109 (16.7)
50～54歳	608	482 (79.3)	73 (12.0)	46 (7.6)	7 (1.2)	126 (20.7)
55～59歳	629	477 (75.8)	98 (15.6)	45 (7.2)	9 (1.4)	152 (24.2)
60～64歳	798	532 (66.7)	132 (16.5)	110 (13.8)	24 (3.0)	266 (33.3)
65～69歳	1,170	751 (64.2)	201 (17.2)	175 (15.0)	43 (3.7)	419 (35.8)
70～74歳	1,031	646 (62.7)	183 (17.7)	161 (15.6)	41 (4.0)	385 (37.3)
75～79歳	32	22 (68.8)	2 (6.3)	5 (15.6)	3 (9.4)	10 (31.3)
総数	6,193	4,523 (73.0)	924 (14.9)	603 (9.7)	143 (2.3)	1,670 (27.0)

3] 二次検査受診状況

	受診者数	要二次検査者数(%)
男	2,039	587 (28.8)
女	4,154	1,083 (26.1)
総数	6,193	1,670 (27.0)

2 二次検査結果内訳（発見がん追跡調査前の二次検査結果）

	二 次 検 査 受 診*															*二 次 検 査 未 把 握	**二 次 検 査 未 受 診	総 数	
	早 期 が ん	進 行 が ん 疑 い	食 道 が ん	そ の 他 の 胃 悪 性 腫 瘍	粘 膜 下 腫 瘍	胃 潰 瘍	胃 潰 瘍 癒 痕	十 二 指 腸 潰 瘍 癒 痕	胃 ポ リ プ	異 型 上 皮	萎 縮 性 胃 炎	そ の 他 の 胃 炎	逆 流 性 食 道 炎	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し				
男	4	2	2	0	0	3	10	6	13	17	1	301	15	1	23	16	172	1	587
女	2	1	0	0	0	3	5	8	33	46	0	645	23	9	48	19	241	0	1,083
総数	6	3	2	0	0	6	15	14	46	63	1	946	38	10	71	35	413	1	1,670

* 二次検査受診とは、医療機関より二次検査結果の報告があった者。または、要二次検査者からの報告で二次検査日・二次検査法・二次検査結果・二次検査医療機関の4項目が揃っている者。

** 二次検査未把握とは、二次検査受診の有無が不明なもの。または二次検査を受診していても二次検査結果が正確に分からない者。

*** 二次検査未受診とは、二次検査を受診していても不適切な二次検査が行われたもの。または、二次検査未受診が判明している者。

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回収数 (%)
		詳細把握 (b)**	がん以外 (c)***	その他 (d)****		
男	10	0	0	0	10	9 (90.0)
女	4	0	0	0	4	4 (100.0)
総数	14	0	0	0	14	13 (92.9)

* 追跡調査対象者数：二次検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。（二次検査未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む。また胃X線検診で追跡調査の対象となった2名を含む。）

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと二次検査結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの二次検査医療機関が不明な者等。

2] 調査結果内訳

	発見がん			良性疾患 (%)
	早 期 (%)	進 行 (%)	不 明 (%)	
男	3 (33.3)	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (33.3)
女	1 (25.0)	2 (50.0)	1 (25.0)	0 (0.0)
総数	4 (30.8)	4 (30.8)	2 (15.4)	3 (23.1)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要二次検査者数(%)	二次検査受診者数(%)	発見がん数(%)	
男	39歳以下	108	11 (10.2)	7 (63.6)	0 (0.00)
	40～44歳	214	41 (19.2)	29 (70.7)	0 (0.00)
	45～49歳	182	21 (11.5)	14 (66.7)	0 (0.00)
	50～54歳	150	33 (22.0)	14 (42.4)	0 (0.00)
	55～59歳	176	44 (25.0)	30 (68.2)	0 (0.00)
	60～64歳	264	84 (31.8)	57 (67.9)	1 (0.38)
	65～69歳	465	177 (38.1)	125 (70.6)	1 (0.22)
	70～74歳	462	172 (37.2)	137 (79.7)	4 (0.87)
	75～79歳	18	4 (22.2)	3 (75.0)	0 (0.00)
	計	2,039	587 (28.8)	416 (70.9)	6 (0.29)
女	39歳以下	335	58 (17.3)	40 (69.0)	0 (0.00)
	40～44歳	616	93 (15.1)	68 (73.1)	0 (0.00)
	45～49歳	470	88 (18.7)	67 (76.1)	0 (0.00)
	50～54歳	458	93 (20.3)	74 (79.6)	0 (0.00)
	55～59歳	453	108 (23.8)	78 (72.2)	0 (0.00)
	60～64歳	534	182 (34.1)	151 (83.0)	1 (0.19)
	65～69歳	705	242 (34.3)	193 (79.8)	1 (0.14)
	70～74歳	569	213 (37.4)	166 (77.9)	2 (0.35)
75～79歳	14	6 (42.9)	6 (100.0)	0 (0.00)	
計	4,154	1,083 (26.1)	843 (77.8)	4 (0.10)	
総数	6,193	1,670 (27.0)	1,259 (75.4)	10 (0.16)	

4] リスク分類別発見がん

	B群	C群	D群	総数
二次検査受診者数	671	479	109	1,259
発見がん数	1	9	0	10
発見率(%)	(0.15)	(1.88)	(0.00)	(0.79)

5] 発見がんの詳細

深達度	早期		進行			不明
	M	SM	MP	SS	SE	
男	0	3	1	1	0	1
女	1	0	0	1	1	1
総数	1	3	1	2	1	2

※以下の表の6]～7]は深達度不明の2名を除き集計した

6] 早期・進行別発見数

	深達度	発見数	総数 (%)
早期	M	1	4 (50.0)
	SM	3	
進行	MP	1	4 (50.0)
	SS	2	
	SE	1	
総数		8	8 (100.0)

7] 肉眼的分類別発見数

肉眼的分類		発見数
0型	IIc	4
3型		3
5型		1
総数		8

8] Stage (進行度) 別発見数

Stage (進行度)	発見数
I A	3
I B	2
II A	1
III A	1
III B	1
総数	8

9] 部位 (壁在) 別発見数

	早期	進行	総数
前壁	2	0	2
後壁	1	1	2
大彎	1	2	3
小彎	0	1	1
総数	4	4	8

10] 部位 (UML) 別発見数

	早期	進行	総数
U	1	0	1
M	1	1	2
ML	0	1	1
MU	0	1	1
L	1	1	2
LM	1	0	1
総数	4	4	8

11] 組織型別発見数

組織型	B群	C群	総数
tub1	0	1	1
tub2	0	2	2
Por1	0	1	1
Por2	1	2	3
Pur(1,2不明)	0	1	1
総数	1	7	8

12] 治療分類別発見数

	発見数
外科手術	4
腹腔鏡下手術	3
内視鏡的治療	1
総数	8

4 まとめ

平成29年度胃X線検査における胃がん発見率は0.11%、要精検率7.9%、陽性反応適中度1.4%であり、がん検診事業評価指標で示している許容値を満たしている。精検受診率は80.0%で昨年同様、目標値の90.0%は満たせていない。また、初回受診と非初回受診のがん発見数を比較すると、早期がんの割合は初回受診72.7%、非初回受診78.0%であり、経年受診で早期がん割合が高かった。これらのことから、精検受診率を高めるための働きかけや、経年受診の必要性について周知していく必要があると考えられる。

平成29年度の胃がんリスク検診は7市2町において実施され、受診者数は6,193人(男性2,039人、女性4,154人)であり、二次検査の対象者数は1,670人で、二次検査未把握と二次検査未受診を除く二次検査受診者数は1,259人で、二次検査受診率は75.4%であった。また、胃がん発見率は0.16%で、男性6人(0.29%)、女性4人(0.10%)、陽性反応適中度0.6%であり、例年の如く男性のがん発見率が高かった。二次検査未受診者の中に潜む胃がんの可能性を考慮すると、二次検査受診率の向上が重要な課題であると思われる。また、胃がんリスク検診でB・C・D群と判定された者は胃がんにかかりやすい状態にあるため、血液検査だけで終わらせず確実に専門の医療機関で二次検査を受診することが重要であると考えられる。

付表1 がん検診事業評価指標値との比較

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診率(%)	確定がん数(%)	陽性反応 適中度(%)
事業団 平成29年度	49,075	3,867 (7.9)	(80.0)	54 (0.11)	(1.4)
事業団 平成28年度	49,675	4,469 (9.0)	(84.9)	57 (0.11)	(1.3)
事業団 平成27年度	52,063	4,911 (9.4)	(84.4)	78 (0.15)	(1.6)
がん検診 事業評価 指標値	許容値	11.0以下	70.0以上	0.11以上	1.0以上
	目標値		90.0以上		

付表2 胃がんリスク検診における発見がん調査結果

	受診者数	要二次検査者数(%)	二次検査 受診率(%)	発見がん数(%)	陽性反応 適中度(%)
事業団 平成29年度	6,193	1,670 (27.0)	(75.4)	10 (0.16)	(0.6)
事業団 平成28年度	6,181	1,833 (29.7)	(79.7)	12 (0.19)	(0.7)
事業団 平成27年度	6,928	2,381 (34.4)	(77.4)	16 (0.23)	(0.7)

平成29年度 出張型住民健診における発見肺がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 検診実施状況

1] 肺がん検診

		受診者数	要 精 検 者 数*	
			D判定	E判定** (%)
男	胸部X線	30,908	348	621 (2.0)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	1,213	30	35 (2.9)
	計	32,121	378	656 (2.0)
女	胸部X線	46,934	353	507 (1.1)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	213	0	4 (1.9)
	計	47,147	353	511 (1.1)
総 数	胸部X線	77,842	701	1,128 (1.4)
	胸部X線 + 喀痰細胞診	1,426	30	39 (2.7)
	総 数	79,268	731	1,167 (1.5)

* 要精検者数 D判定は「肺癌以外の疾患を疑う」、E判定は「肺癌の疑い」

**E判定には喀痰細胞診でのみ要精検を含む。

2 精検結果内訳 (肺がん検診要精検者E判定1,167名の精検結果内訳)

	精 検 受 診*														総 数
	原 発 性 肺 がん	肺 が ん 疑 い	転 移 性 肺 腫 瘍	悪 性 腫 瘍 以 外 の 肺 腫 瘍	縦 隔 腫 瘍	そ の 他 の 悪 性 腫 瘍	活 動 性 肺 結 核 疑 い	不 活 動 性 肺 結 核 疑 い	肺 結 核 治 癒	そ の 他 の 呼 吸 器 疾 患	循 環 器 疾 患	そ の 他 の 異 常	異 常 認 め ず	*精 検 未 把 握	
男	8	46	2	5	1	1	2	9	3	196	7	18	229	129	656
女	9	37	1	5	0	1	0	3	4	166	3	13	202	67	511
総数	17	83	3	10	1	2	2	12	7	362	10	31	431	196	1,167

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

**精検未把握とは、精検受診の有無が不明な者。または精検を受診していても精検結果が正確にわからない者。

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調査除外内訳 (d)			追跡 調査数 (a-(b+c+d))	回収数 (%)
	詳細把握 (b)**	がん以外 (c)***	その他 (d)****			
男	63	1	5	0	57	57 (100.0)
女	48	0	4	1	43	41 (95.3)
総数	111	1	9	1	100	98 (98.0)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に確定がんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

**** その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

2] 調査結果内訳（調査数及び調査前に発見がんの詳細を把握していた数を併せた詳細）

	発見がん			その他 (%)	異常 なし (%)	経過 観察 (%)	未確定 (%)	追跡 不能 (%)
	I期 (%)	I期外 (%)	不明 (%)					
男	20 (34.5)	14 (24.1)	3 (5.2)	20 (34.5)	0 (0.0)	1 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
女	16 (37.2)	8 (18.6)	0 (0.0)	14 (32.6)	0 (0.0)	1 (2.3)	2 (4.7)	2 (4.7)
総数	36 (35.6)	22 (21.8)	3 (3.0)	34 (33.7)	0 (0.0)	2 (2.0)	2 (2.0)	2 (2.0)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診数 (%)	確定がん数 (%)
39歳以下	454	2 (0.4)	1 (50.0)	0 (0.00)
40～44歳	1,551	14 (0.9)	11 (78.6)	0 (0.00)
45～49歳	1,418	5 (0.4)	4 (80.0)	0 (0.00)
50～54歳	1,255	16 (1.3)	12 (75.0)	2 (0.16)
55～59歳	1,662	21 (1.3)	16 (76.2)	0 (0.00)
男 60～64歳	3,849	68 (1.8)	53 (77.9)	1 (0.03)
65～69歳	8,317	168 (2.0)	134 (79.8)	13 (0.16)
70～74歳	6,563	150 (2.3)	126 (84.0)	12 (0.18)
75～79歳	4,400	113 (2.6)	97 (85.8)	1 (0.02)
80歳以上	2,652	99 (3.7)	81 (81.8)	8 (0.30)
計	32,121	656 (2.0)	535 (81.6)	37 (0.12)
39歳以下	649	1 (0.2)	1 (100.0)	0 (0.00)
40～44歳	3,552	8 (0.2)	7 (87.5)	0 (0.00)
45～49歳	3,147	17 (0.5)	14 (82.4)	0 (0.00)
50～54歳	2,996	19 (0.6)	17 (89.5)	1 (0.03)
55～59歳	4,112	30 (0.7)	28 (93.3)	1 (0.02)
女 60～64歳	7,171	73 (1.0)	61 (83.6)	5 (0.07)
65～69歳	11,053	135 (1.2)	122 (90.4)	7 (0.06)
70～74歳	7,629	111 (1.5)	100 (90.1)	5 (0.07)
75～79歳	4,560	71 (1.6)	63 (88.7)	3 (0.07)
80歳以上	2,278	46 (2.0)	33 (71.7)	2 (0.09)
計	47,147	511 (1.1)	446 (87.3)	24 (0.05)
総数	79,268	1,167 (1.5)	981 (84.1)	61 (0.08)

4] 検査方法別 発見がん数と発見率

	実施人数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
胸部 X 線	79,268	1,167 (1.5)	981 (84.1)	61 (0.08)
ヘリカルCT	1,091	29 (2.7)	22 (75.9)	1 (0.09)
総数	80,359	1,196 (1.5)	1,003 (83.9)	62 (0.08)

5] 検診実施状況 (胸部CT検診)

	受診者数	要精検者数 (%)		精検受診者数 (%)
		D判定	E判定 (%)	
胸部CT	1,071	40	29 (2.7)	22 (75.9)
胸部CT + 喀痰細胞診	20	2	0 (0.0)	0 (0.0)

6] 発見がん内訳（胸部CT検診）

年齢・性別	前年度受診	組織分類	臨床病期分類	治療分類
70代・男性	あり	不明	不明	不明

7] 発見がん内訳（胸部CT検診以外）

(1) 組織分類別発見数

	男	女	総数
腺 癌	23	23	46
扁平上皮癌	6	0	6
腺扁平上皮癌	1	0	1
小細胞癌	3	0	3
その他	3	1	4
不明	1	0	1
総 数	37	24	61

(3) 治療分類別発見数

	男	女	総数
手 術	9	6	15
手術・化学療法	1	1	2
胸腔鏡下手術	18	12	30
胸腔鏡下手術・化学療法	1	0	1
化学療法	4	3	7
放射線療法	0	1	1
気管支鏡下手術・放射線療法	0	1	1
治療拒否	1	0	1
不明	3	0	3
総 数	37	24	61

(2) 臨床病期分類別発見数

	男	女	総数
0期	1	2	3
I A 1期	1	1	2
I A 2期	8	6	14
I A 3期	2	4	6
I B期	8	3	11
II A期	1	1	2
II B期	3	2	5
III A期	3	3	6
III B期	2	0	2
III C期	0	0	0
IV A期	4	2	6
IV B期	1	0	1
不明	3	0	3
総数	37	24	61

4 前回未受診、前回受診別 追跡調査結果（胸部CT検診以外）

※ 平成29年度 地域保健・健康増進事業報告より

前回未受診：前年度受診していない者

前回受診：前年度も検診を受診している者

1] 前回未受診、前回受診別臨床病期分類別発見数

	前回未受診	前回受診
0期	0	3
I A 1期	1	1
I A 2期	4	10
I A 3期	4	2
I B期	4	7
II A期	2	0
II B期	2	3
III A期	4	2
III B期	2	0
III C期	0	0
IV A期	2	4
IV B期	1	0
不明	2	1
総数	28	33

2] 前回未受診、前回受診別発見率及びI期率

	受診者数	発見がん数 (%)	I期 (%)	I期外	不明
前回未受診	24,631	28 (0.11)	13 (46.4)	13	2
前回受診	54,637	33 (0.06)	23 (69.7)	9	1

5 喫煙及び組織型

1] 喫煙指数（本数/日×年数）

喫煙指数	男	女	総数
0～	4	23	27
200～	1	0	1
400～	2	1	3
600～	4	0	4
800～	8	0	8
1000～	6	0	6
1200～	6	0	6
1400～	6	0	6
総数	37	24	61

2] 喫煙指数及び組織型別発見数

喫煙指数	組織型	男	女	総数
600未満	腺癌	3	2	5
	腺扁平上皮癌	1	0	1
	扁平上皮癌	1	0	1
600以上	腺癌	18	0	18
	扁平上皮癌	5	0	5
	大細胞癌	0	0	0
	小細胞癌	3	0	3
	その他	3	0	3
	不明	1	0	1
総数		35	2	37

※喫煙歴なし 男2名、女22名

3] 喫煙習慣及び組織型別発見数

喫煙習慣	組織型	男	女	総数
吸わない	腺癌	2	21	23
	その他	0	1	1
	不明	0	0	0
止めた	腺癌	14	1	15
	扁平上皮癌	5	0	5
	腺扁平上皮癌	1	0	1
	その他	3	0	3
	不明	1	0	1
吸う	腺癌	7	1	6
	扁平上皮癌	1	0	1
	小細胞癌	3	0	3
	大細胞癌	0	0	0
	その他	0	0	0
	不明	0	0	0
総数		37	24	61

6 まとめ

肺癌取扱い規約の肺がん検診の手引きより「肺がん検診における胸部X線検査の判定基準と指導区分」の中で「肺がん検診における肺癌確診患者数（検診発見肺癌）とは、E1およびE2判定となった要精検者の中から原発性肺癌と確診された患者数を意味する」、また「D判定者の中から肺癌が発見されたとしても、検診発見肺癌とは認めない」との記述があり、これに基づいて追跡調査を行っている。

平成29年度の肺がん検診受診者は79,268人で、確定肺がんは61人であり、がん発見率は昨年度と同様0.08%であった。また、肺がん検診受診者数は、前年度の73,610人に比べ5,658人増加した。前年度と比較すると、男女とも70歳代以上の受診者が増えていた。

前回未受診者と経年受診者を比較したところ、がん発見率は、前回未受診者の0.11%に対し経年受診者は0.06%であった。

I期肺がん割合は、前回未受診者では46.4%だったが、経年受診者では69.7%で、経年受診者の方がI期肺がんの割合が高かった。

肺がん検診の精検受診率については、胸部X線検診（喀痰細胞診併用を含む）では前年度の89.2%に対し、今年度は84.1%と低い結果になった。

当施設における肺がん検診の成績と、がん検診事業評価指標の許容値を比較すると、全て満たしていた。今後は更なる精度管理の向上をはかるために、精検受診率の目標値である90%以上を目指して各関係機関と連携していきたい。（付表1）

付表1 がん検診事業評価指標値との比較（対象は肺がんCTを除く肺がん検診とする）

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	確定がん数	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
事業団 平成29年度	79,268	1,167 (1.5)	(84.1)	61	(0.08)	(5.2)
事業団 平成28年度	73,610	1,653 (2.2)	(89.2)	56	(0.08)	(3.4)
事業団 平成27年度	73,561	1,209 (1.6)	(87.0)	52	(0.07)	(4.3)
がん検診 事業評価 指標値	許容値	3.0以下	70.0以上		0.03以上	1.3以上
	目標値		90.0以上			

付表2 最終読影判定Dの発見肺がん

検査法	年代・性別	前年度受診	組織分類	臨床病期分類	治療分類
胸部X線のみ	70代・男性	あり	腺癌	I A3	胸腔鏡下手術
胸部X線のみ	60代・女性	なし	腺癌	I B	胸腔鏡下手術
胸部CTのみ	60代・男性	なし	不明	不明	不明

付表3 胸部検診（肺がん検診・結核検診）における至急精検結果

1] 至急対象内訳

	男	女	総数
肺がん疑い	33	13	46
結核疑い	1	1	2
その他疑い	9	9	18
総数	43	23	66

2] 精検結果内訳（肺がん疑い）

	男	女	総数
肺がん	12	6	18
転移性肺腫瘍	1	0	1
その他の悪性腫瘍	1	1	2
循環器疾患	1	1	2
その他の呼吸器疾患	12	3	15
その他の異常	3	2	5
異常なし	3	0	3
総数	33	13	46

3] 精検結果内訳（結核疑い）

	男	女	総数
その他の呼吸器疾患	1	1	2
総数	1	1	2

4] 精検結果内訳（その他疑い）

	男	女	総数
肺がん	1	0	1
転移性肺腫瘍	0	2	2
縦隔腫瘍	1	0	1
循環器疾患	0	2	2
その他の呼吸器疾患	6	4	10
異常なし	0	1	1
不明	1	0	1
総数	9	9	18

平成29年度 出張型住民健診における発見大腸がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数(%)
男	30,926	2,084 (6.7)
女	46,559	1,965 (4.2)
総数	77,485	4,049 (5.2)

2 精検結果内訳（発見がん追跡調査前の精検結果）

	精 検 受 診*												精 検 未 受 診	総 数
	早 期 が ん	進 行 が ん	が ん 疑 い	ポ リ プ	ポ リ ポ シ ス	ク ロ ン 病	潰 瘍 性 大 腸 炎	憩 室	痔 疾 患	そ の 他 の 疾 患	異 常 認 め ず	*精 検 未 把 握		
男	37	20	7	770	5	0	4	113	100	34	259	735	1,349	
女	31	15	6	562	7	0	3	161	174	47	411	547	1,417	
総数	68	35	13	1,332	12	0	7	274	274	81	670	1,282	2,766	

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは精検を受診していても不適切な精検が行われたもの。または、精検未受診が判明している者。

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査対象者数 (a)*	調査除外内訳 (d)			追跡調査数 (a-(b+c+d))	回収数 (%)
		詳細把握 (b)**	がん以外 (c)***	その他 (d)****		
男	80	0	1	0	79	75 (94.9)
女	58	0	0	0	58	57 (98.3)
総数	138	0	1	0	137	132 (96.4)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。（精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む）

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等。

2] 調査結果内訳

	発 見 が ん			その他の疾患 (%)	異常なし (%)	未確定 (%)	追跡不能 (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)				
男	40 (50.6)	21 (26.6)	1 (1.3)	12 (15.2)	0 (0.0)	1 (1.3)	4 (5.1)
女	37 (63.8)	14 (24.1)	0 (0.0)	3 (5.2)	0 (0.0)	3 (5.2)	1 (1.7)
総数	77 (56.2)	35 (25.5)	1 (0.7)	15 (10.9)	0 (0.0)	4 (2.9)	5 (3.6)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診数 (%)	発見がん数 (%)	
男	39歳以下	275	11 (4.0)	6 (54.5)	0 (0.00)
	40～44歳	1,622	66 (4.1)	43 (65.2)	1 (0.06)
	45～49歳	1,511	60 (4.0)	31 (51.7)	1 (0.07)
	50～54歳	1,345	51 (3.8)	32 (62.7)	3 (0.22)
	55～59歳	1,760	81 (4.6)	44 (54.3)	1 (0.06)
	60～64歳	3,704	216 (5.8)	139 (64.4)	3 (0.08)
	65～69歳	7,904	529 (6.7)	338 (63.9)	12 (0.15)
	70～74歳	6,095	456 (7.5)	320 (70.2)	16 (0.26)
	75～79歳	4,197	367 (8.7)	264 (71.9)	15 (0.36)
	80歳以上	2,513	247 (9.8)	146 (59.1)	10 (0.40)
	計	30,926	2,084 (6.7)	1,363 (65.4)	62 (0.20)
女	39歳以下	640	36 (5.6)	19 (52.8)	0 (0.00)
	40～44歳	3,724	137 (3.7)	86 (62.8)	2 (0.05)
	45～49歳	3,359	125 (3.7)	82 (65.6)	1 (0.03)
	50～54歳	3,311	131 (4.0)	75 (57.3)	1 (0.03)
	55～59歳	4,441	153 (3.4)	112 (73.2)	4 (0.09)
	60～64歳	7,108	257 (3.6)	194 (75.5)	6 (0.08)
	65～69歳	10,400	418 (4.0)	316 (75.6)	15 (0.14)
	70～74歳	7,068	324 (4.6)	254 (78.4)	11 (0.16)
	75～79歳	4,331	232 (5.4)	172 (74.1)	6 (0.14)
	80歳以上	2,177	152 (7.0)	113 (74.3)	5 (0.23)
計	46,559	1,965 (4.2)	1,423 (72.4)	51 (0.11)	
総数	77,485	4,049 (5.2)	2,786 (68.8)	113 (0.15)	

4] 占居部位別発見数

	男	女	総数
盲腸	3	4	7
上行結腸	7	10	17
横行結腸	6	6	12
下行結腸	3	1	4
S状結腸	25	16	41
直腸S状部	4	4	8
直腸	13	10	23
不明	1	0	1
総数	62	51	113

5] 組織分類別発見数

	男	女	総数
乳頭腺癌	2	1	3
高分化	32	32	64
管状腺癌	23	14	37
中分化	1	0	1
低分化	1	0	1
粘液癌	1	1	2
印環細胞癌	0	1	1
その他	2	2	4
不明	1	0	1
総数	62	51	113

6] 組織学的深達度別発見数

	男	女	総数
Tis (M)	25	22	47
T1 (SM)	15	15	30
T2 (MP)	4	4	8
T3 (SS)	15	9	24
T4a (SE)	2	1	3
不明	1	0	1
総数	62	51	113

7] 手術術式別発見数

	早期	進行	不明	総数
ポリペクトミー	19	0	0	19
内視鏡的粘膜切除	35	0	0	35
腹腔鏡下手術	20	26	0	46
外科手術	3	8	1	12
その他	0	1	0	1
総数	77	35	1	113

[早期がん割合 68.1%]

8] Stage分類別発見数

	男	女	総数
0	25	22	47
I	17	16	33
II	9	5	14
III a	7	6	13
III b	1	2	3
IV	2	0	2
不明	1	0	1
総数	62	51	113

9] Dukes分類別発見数

	男	女	総数
A	42	38	80
B	9	5	14
C	8	8	16
D	2	0	2
不明	1	0	1
総数	62	51	113

10] 初回、非初回別早期割合

		早期(%)	進行	不明
初回	男	11 (61.1)	7	0
	女	10 (58.8)	7	0
	計	21 (60.0)	14	0
非初回	男	29 (65.9)	14	1
	女	27 (79.4)	7	0
	計	56 (71.8)	21	1

※平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も大腸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上大腸がん検診を受診している者

4 まとめ

平成29年度の発見大腸がん追跡調査の結果、男性62人、女性51人のがんが発見された。がん発見率は男性0.20%、女性0.11%であり、男性のがん発見率が高かった。また、男女とも加齢とともにがん発見率は高くなる傾向を示した。

発見大腸がんの占拠部位はS状結腸が最も多く（36.3%）、次いで直腸（20.4%）及び上行結腸（15.0%）の順であった。直腸S状部を含めた直腸の割合は27.5%であるが例年と違い、直腸ではなくS状結腸から一番多く発見された。

組織型は管状腺癌が最も多く、高分化型（56.6%）、中分化型（32.7%）、低分化型（0.9%）と合わせると90.2%を占めていた。また、粘液癌が2人、印環細胞癌が1人発見された。

発見大腸がんの組織深達度では、113人中、77人（68.1%）が早期がんとなるTis(M)、T1(SM)であった。

発見大腸がんの手術術式は、早期がんに対して内視鏡下で行われるポリペクトミー、ESDを含む内視鏡的粘膜切除が113人中54人（47.8%）に実施された。腹腔鏡下手術は、113人中46人（40.7%）に実施されており、早期、進行問わず手術術式の中で広く用いられる方法となった。なお、外科手術（通常の開腹手術）は12人（10.6%）で実施されていた。

大腸がん検診の受診履歴別による発見大腸がんの早期がん割合は、初回受診者が60.0%であるのに対し、非初回受診者では71.8%であった。

「がん検診事業の評価に関する委員会」で示されたプロセス指標の許容値との比較を下記に示す。精度管理の指標となる要精検率及びがん発見率、陽性反応適中度は許容値を満たしていたが、精検受診率が68.8%と、わずかに届かなかった。これは平成29年度より精検受診に関する集計方法が一部変更となったことが起因しているものと考えられた。

大腸がん検診で発見されるがんは早期がんが多く、内視鏡下での粘膜切除にて治療が済む割合が高い。また、非初回受診者で発見される大腸がんは初回受診者よりも早期がんの割合が高く、検診の受診率向上と継続受診の重要性を併せた受診勧奨が、より多くの大腸がんの早期発見・早期治療に繋がるものとする。

付表 がん検診事業評価指標値との比較

	受診者数	要精検者数 (%)	精検 受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
事業団 平成29年度	77,485	4,049 (5.2)	(68.8)	113 (0.15)	(2.8)
事業団 平成28年度	75,611	4,065 (5.4)	(77.3)	117 (0.15)	(2.9)
事業団 平成27年度	76,773	4,316 (5.6)	(75.2)	117 (0.15)	(2.7)
がん検診 事業評価指標	許容値	7.0%以下	70.0%以上	0.13%以上	1.9%以上
	目標値		90.0%以上		

平成29年度 出張型住民健診における発見子宮頸がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 検診実施状況

1] 検査方式別実施状況

	受診者数	要精検者数(%)
HPV併用	8,556	489 (5.7)
ASC-US時 HPV追加	29,760	608 (2.0)
細胞診のみ	1,397	38 (2.7)
総 数	39,713	1,135 (2.9)

2] 平成29年度 市町別実施方式

① HPV併用	小山市・野木町・下野市・芳賀町
	足利市の30歳・35歳・40歳の希望者
	那須烏山市の30歳・35歳・40歳
	茂木町の30歳以上
	那須塩原市の30歳代・40歳代
	大田原市の25歳から45歳
② ASC-US時HPV追加	那須町の30歳代
	①③以外
③ 細胞診のみ	宇都宮市

【HPV併用】

1 検診実施状況

1] 受診者数及び精検受診状況

	受診者数	要精検者数(%)
総 数	8,556	489 (5.7)

2] 検診での細胞診結果の内訳

細胞診結果	受診者数	ベセスダシステム判定結果内訳 (適正検体)									不適正 標 本
		適 正 標 本									
		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma	
19歳以下	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	184	165	8	0	10	1	0	0	0	0	0
25～29歳	584	517	34	0	22	10	0	0	0	0	1
30～34歳	1,293	1,178	60	2	37	16	0	0	0	0	0
35～39歳	1,562	1,429	66	2	44	19	0	1	0	0	1
40～44歳	1,706	1,579	73	1	40	13	0	0	0	0	0
45～49歳	913	837	44	1	23	8	0	0	0	0	0
50～54歳	433	405	23	0	5	0	0	0	0	0	0
55～59歳	418	405	8	0	3	1	0	1	0	0	0
60～64歳	445	427	10	0	4	4	0	0	0	0	0
65～69歳	486	466	12	0	6	2	0	0	0	0	0
70～74歳	306	291	8	1	2	4	0	0	0	0	0
75～79歳	173	163	8	0	0	2	0	0	0	0	0
80歳以上	52	51	1	0	0	0	0	0	0	0	0
総 数	8,556	7,914	355	7	196	80	0	2	0	0	2

3] 検診でのHPV-DNA検査結果内訳

	受診者数	HPV(-)	HPV(+)(%)
19歳以下	1	1	0 (0.0)
20～24歳	184	159	25 (13.6)
25～29歳	584	510	73 (12.5)
30～34歳	1,293	1,172	121 (9.4)
35～39歳	1,562	1,454	107 (6.9)
40～44歳	1,706	1,605	101 (5.9)
45～49歳	913	846	67 (7.3)
50～54歳	433	405	28 (6.5)
55～59歳	418	404	14 (3.3)
60～64歳	445	434	11 (2.5)
65～69歳	486	458	28 (5.8)
70～74歳	306	290	16 (5.2)
75～79歳	173	164	9 (5.2)
80歳以上	52	49	3 (5.8)
総 数	8,556	7,951	603 (7.0)

※ 受診者数はHPV検査の判定不能2人を含む。

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*													*結 果 未 把 握 #	*精 検 未 受 診 #	総 数
	上 皮 内 がん #	上 皮 内 腺 がん #	微 小 浸 潤 扁平 上皮 がん #	微 小 浸 潤 腺 がん #	扁 平 上 皮 がん #	腺 がん #	そ の 他 の がん #	高 度 異 形 成 #	中 等 度 異 形 成 #	軽 度 異 形 成 #	腺 異 形 成 #	そ の 他 の 疾 患 #	異 常 を 認 め ず #			
総数	7	1	0	0	0	2	0	12	57	174	1	3	161	71	0	489

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは、精検を受診していても不適切な精検が行われたもの。または、精検未受診が判明している者。

**** 軽度異形成から1人、その他の疾患から1人、結果未把握から3人追跡対象者がいた。

追跡調査対象者

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追 跡 調 査 対 象 者 数 (a)*	調査除外内訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回 収 数 (%)
		詳細把握 (b) **	がん以外 (c) ***	その他 (d) ****		
総 数	28	0	0	1	27	25 (92.6)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等。

2] 調査結果内訳

	発 見 が ん			異 形 成 (%)	そ の 他 の 疾 患 (%)	異 常 な し (%)
	早期*(%)	進行 (%)	不明 (%)			
総数	6 (24.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	16 (64.0)	0 (0.0)	1 (4.0)

* 子宮頸癌取扱い規約(2012.4)で0期は存在しないが今回は0期を上皮内癌とした。

3] 細胞診結果及びHPV結果における発見がん数

細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno-carcinoma
	適正	不適正									
	8,554	2	7,914	355	7	196	80	0	2	0	0
HPV 検査 (-)	7,951	-	7,718	182	4	39	7	-	1	-	-
HPV 検査 (+)	603	-	196	173	3	157	73	-	1	-	-
未実施	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精検不要者数	347	-	165	182	0	0	0	-	0	-	-
要精検者数	489	-	31*	173	7	196	80	-	2	-	-
精検受診者数	421	-	25	145	6	170	73	-	2	-	-
発見がん数	8	0	0	2	0	0	4	0	2	0	0

*2年連続で細胞診(NILM)・HPV(+))なので要精検となった。

4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19歳以下	1	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
20～24歳	184	19 (10.3)	17 (89.5)	0 (0.00)
25～29歳	584	55 (9.4)	46 (83.6)	1 (0.17)
30～34歳	1,293	96 (7.4)	76 (79.2)	2 (0.15)
35～39歳	1,562	94 (6.0)	88 (93.6)	2 (0.13)
40～44歳	1,706	84 (4.9)	73 (86.9)	1 (0.06)
45～49歳	913	53 (5.8)	48 (90.6)	1 (0.11)
50～54歳	433	22 (5.1)	15 (68.2)	0 (0.00)
55～59歳	418	11 (2.6)	10 (90.9)	1 (0.24)
60～64歳	445	11 (2.5)	8 (72.7)	0 (0.00)
65～69歳	486	22 (4.5)	20 (90.9)	0 (0.00)
70～74歳	306	14 (4.6)	12 (85.7)	0 (0.00)
75～79歳	173	7 (4.0)	7 (100.0)	0 (0.00)
80歳以上	52	1 (1.9)	1 (100.0)	0 (0.00)
総 数	8,556	489 (5.7)	421 (86.1)	8 (0.09)

5] 初回、非初回別実施状況

※ 平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も子宮頸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上子宮頸がん検診を受診している者

(1) 実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
初 回	4,906	273 (5.6)	233 (85.3)	7 (0.14)
非初回	3,650	216 (5.9)	188 (87.0)	1 (0.03)
総 数	8,556	489 (5.7)	421 (86.1)	8 (0.09)

(2) 早期・進行割合

	発見がん数	早 期 (%)	進 行 (%)	不 明 (%)
初 回	7	5 (71.4)	2 (28.6)	0 (0.0)
非初回	1	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
総 数	8	6 (75.0)	2 (25.0)	0 (0.0)

(3) 年齢別実施状況

	受診者数 (%)	要精検者数 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
39歳以下	初 回	2,239 (61.8)	163 (7.3)	5 (0.22) (3.1)
	非初回	1,385 (38.2)	101 (7.3)	0 (0.00) (0.0)
	総 数	3,624 (100.0)	264 (7.3)	5 (0.14) (1.9)
40歳以上	初 回	2,667 (54.1)	110 (4.1)	2 (0.07) (1.8)
	非初回	2,265 (45.9)	115 (5.1)	1 (0.04) (0.9)
	総 数	4,932 (100.0)	225 (4.6)	3 (0.06) (1.3)

6] 発見がん調査の詳細

(1) 臨床進行期別発見数

臨床進行期	発見数	
早期がん	0期*	4
	I A期	2
進行がん	I B期	2
総 数		8

*子宮頸癌取扱い規約(2012.4)で0期は存在しないが、今回は0期を上皮内癌とした

(2) TNM分類別発見数

TNM分類	早期がん (人)	進行がん (人)
Tis・N0・M0	3	0
T0・N0・M0	0	0
T1・N0・M0	2	2
未記入	1	0
総 数	6	2

(3) 組織分類別発見数

	早期がん(人)	進行がん(人)
上皮内癌	4	0
微小浸潤扁平上皮癌	1	0
微小浸潤腺癌	1	0
腺癌	0	2
総数	6	2

(4) 治療分類別発見数

術式	早期がん(人)	進行がん(人)
子宮頸部円錐切除術	4	0
単純子宮全摘出術	0	0
単純子宮全摘手術+卵管全摘除術	1	0
広汎子宮全摘出術	0	2
広汎子宮頸部摘出術	1	0
未記入	0	0
総 数	6	2

【ASC-US時HPV追加】

1 検診実施状況

1] 受診者数及び精検受診状況

	受診者数	要精検者数(%)
総 数	29,760	608 (2.0)

2] 検診での細胞診結果の内訳

細胞診結果	受診者数	ベセスダシステム判定結果内訳 (適正検体)									不適正 標 本
		適 正 標 本									
		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma	
19歳以下	8	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0
20～24歳	510	466	14	2	26	2	0	0	0	0	0
25～29歳	846	785	22	0	33	6	0	0	0	0	0
30～34歳	1,559	1,458	41	1	38	18	0	3	0	0	0
35～39歳	1,855	1,762	45	1	35	12	0	0	0	0	0
40～44歳	2,191	2,084	55	1	38	11	0	2	0	0	0
45～49歳	2,438	2,293	72	1	58	12	0	2	0	0	0
50～54歳	2,575	2,499	35	0	30	11	0	0	0	0	0
55～59歳	3,112	3,042	33	1	18	16	0	2	0	0	0
60～64歳	4,180	4,115	34	4	19	7	1	0	0	0	0
65～69歳	5,274	5,181	50	2	27	14	0	0	0	0	0
70～74歳	3,086	3,037	29	0	12	8	0	0	0	0	0
75～79歳	1,571	1,552	9	0	8	1	1	0	0	0	0
80歳以上	555	549	2	1	3	0	0	0	0	0	0
総 数	29,760	28,830	441	14	346	118	2	9	0	0	0

3] 検診でのASC-USと判定された受診者のHPV-DNA検査結果の内訳

	受診者数	HPV(-)	HPV(+)(%)
19歳以下	0	-	- (-)
20～24歳	14	5	9 (64.3)
25～29歳	22	11	11 (50.0)
30～34歳	41	17	24 (58.5)
35～39歳	45	34	11 (24.4)
40～44歳	55	45	10 (18.2)
45～49歳	72	54	18 (25.0)
50～54歳	35	33	2 (5.7)
55～59歳	33	26	7 (21.2)
60～64歳	34	26	8 (23.5)
65～69歳	50	40	10 (20.0)
70～74歳	29	23	6 (20.7)
75～79歳	9	6	3 (33.3)
80歳以上	2	2	0 (0.0)
総数	441	322	119 (27.0)

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*												*結 果 未 把 握	*精 検 未 受 診	総 数	
	上 皮 内 癌 がん #	上 皮 内 腺 がん #	微 小 浸 潤 扁平 上皮 がん #	微 小 浸 潤 腺 がん #	扁 平 上 皮 がん #	腺 がん #	そ の 他 の がん #	高 度 異 形 成 #	中 等 度 異 形 成 #	軽 度 異 形 成 #	腺 異 形 成 #	そ の 他 の 疾 患 #				
総数	4	1	1	0	1	2	1	18	73	215	0	6	165	121	0	608

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは、精検を受診していても不適切な精検が行われたもの。または、精検未受診が判明している者。

**** 中等度異形成から1人、その他の疾患から2人追跡対象者がいた。

追跡調査対象者

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追 跡 調 査 対 象 者 数 (a)*	調査除外内訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回 収 数 (%)
		詳細把握 (b) **	がん以外 (c) ***	その他 (d) ****		
総 数	31	0	0	0	31	29 (93.5)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等。

2] 調査結果内訳

	発 見 が ん			異 形 成 (%)	そ の 他 の 疾 患 (%)	異 常 な し (%)
	早 期 (%)	進 行 (%)	不 明 (%)			
総 数	8 (27.6)	4 (13.8)	0 (0.0)	15 (51.7)	2 (6.9)	0 (0.0)

※ 子宮頸がん取扱い規約（2012.4）で0期は存在しないが、今回は0期を上皮内癌とした。

3] 細胞診結果及びHPV結果における発見がん数

細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno-carcinoma
	適正	不適正									
	29,760	0	28,830	441	14	346	118	2	9	0	0
HPV 検査 (-)	322	-	-	322	-	-	-	-	-	-	-
HPV 検査 (+)	119	-	-	119	-	-	-	-	-	-	-
未実施	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精検不要者数	322	-	-	322	-	-	-	-	-	-	-
要精検者数	608	-	-	119	14	346	118	2	9	-	-
精検受診者数	490	-	-	92	9	285	94	2	9	-	-
発見がん数	12	0	0	1	0	0	11	0	0	0	0

* 細胞診はASC-USでHPVが(-)なので精検不要。

4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19歳以下	8	1 (12.5)	1 (100.0)	0 (0.00)
20～24歳	510	39 (7.6)	29 (74.4)	0 (0.00)
25～29歳	846	50 (5.9)	39 (78.0)	1 (0.12)
30～34歳	1,559	84 (5.4)	67 (79.8)	2 (0.13)
35～39歳	1,855	59 (3.2)	50 (84.7)	4 (0.22)
40～44歳	2,191	62 (2.8)	50 (80.6)	0 (0.00)
45～49歳	2,438	91 (3.7)	73 (80.2)	0 (0.00)
50～54歳	2,575	43 (1.7)	35 (81.4)	2 (0.08)
55～59歳	3,112	44 (1.4)	34 (77.3)	1 (0.03)
60～64歳	4,180	39 (0.9)	31 (79.5)	0 (0.00)
65～69歳	5,274	53 (1.0)	44 (83.0)	1 (0.02)
70～74歳	3,086	26 (0.8)	24 (92.3)	1 (0.03)
75～79歳	1,571	13 (0.8)	10 (76.9)	0 (0.00)
80歳以上	555	4 (0.7)	3 (75.0)	0 (0.00)
総数	29,760	608 (2.0)	490 (80.6)	12 (0.04)

※ 子宮頸がんの発見がん12人以外に70～74歳に胃がんが1人と40～44歳に卵巣腫瘍が1人発見された。

5] 初回、非初回別実施状況

※平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も子宮頸がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上子宮頸がん検診を受診している者

(1) 実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
初回	6,529	241 (3.7)	196 (81.3)	8 (0.12)
非初回	23,231	367 (1.6)	294 (80.1)	4 (0.02)
総数	29,760	608 (2.0)	490 (80.6)	12 (0.04)

(2) 早期・進行割合

	発見がん数	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)
初回	8	7 (87.5)	1 (12.5)	0 (0.0)
非初回	4	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)
総数	12	8 (66.7)	4 (33.3)	0 (0.0)

(3) 年齢別実施状況

		受診者数 (%)	要精検者数 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
39歳以下	初回	2,399 (50.2)	138 (5.8)	7 (0.29)	(5.1)
	非初回	2,379 (49.8)	95 (4.0)	0 (0.00)	(0.0)
	総数	4,778 (100.0)	233 (4.9)	7 (0.15)	(3.0)
40歳以上	初回	4,130 (16.5)	103 (2.5)	1 (0.02)	(1.0)
	非初回	20,852 (83.5)	272 (1.3)	4 (0.02)	(1.5)
	総数	24,982 (100.0)	375 (1.5)	5 (0.02)	(1.3)

6] 発見がん調査の詳細

(1) 臨床進行期別発見数

臨床進行期	発見数	
早期がん	0期*	7
	I A期	1
進行がん	I B期	4
総数	12	

* 子宮頸がん取扱い規約 (2012.4) で0期は存在しないが、今回は0期を上皮内癌とした。

(2) TNM分類別発見数

TNM分類	早期がん (人)	進行がん (人)
T0・N0・M0	1	0
Tis・N0・M0	2	0
Tis・N0・M未記入	1	0
Tis・NX・M0	1	0
T1・N0・M0	1	3
T1・N1・M0	0	1
未記入	2	0
総数	8	4

(3) 組織分類別発見数

	早期がん (人)	進行がん (人)
上皮内癌	7	0
微小浸潤扁平上皮癌	1	0
扁平上皮癌	0	3
腺癌	0	1
総数	8	4

(4) 治療分類別発見数

術式	早期がん (人)	進行がん (人)
子宮頸部円錐切除術	8	0
単純子宮全摘手術	0	0
準広汎子宮全摘出術	0	1
広汎子宮全摘出術	0	3
未記入	0	0
総数	8	4

【細胞診のみ】

1 検診実施状況

1] 受診者数と精検受診状況

	受診者数	要精検者数(%)
総 数	1,397	38 (2.7)

2] 検診での細胞診結果の内訳

細胞診結果	ベセスダシステム判定結果内訳 (適正検体)										
	受診者数	適 正 標 本									不適正 標 本
		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma	
19歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24歳	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25～29歳	11	8	2	0	1	0	0	0	0	0	0
30～34歳	49	47	1	0	1	0	0	0	0	0	0
35～39歳	35	34	1	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	114	111	3	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	113	107	4	0	2	0	0	0	0	0	0
50～54歳	66	63	3	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	140	137	1	0	0	2	0	0	0	0	0
60～64歳	248	242	6	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	310	302	6	0	0	2	0	0	0	0	0
70～74歳	223	221	0	0	1	1	0	0	0	0	0
75～79歳	65	65	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	18	17	0	0	1	0	0	0	0	0	0
総 数	1,397	1,359	27	0	6	5	0	0	0	0	0

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*													*結 果未 把握	**精 検未 受診	総 数
	上 皮 内 が ん	上 皮 内 腺 が ん	微 小 浸 潤 扁 平 上 皮 が ん	微 小 浸 潤 腺 が ん	扁 平 上 皮 が ん	腺 が ん	そ の 他 の が ん	高 度 異 形 成	中 等 度 異 形 成	軽 度 異 形 成	腺 異 形 成	そ の 他 の 疾 患	異 常 を 認 め ず			
	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#			
総数	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	24	7	0	38	

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは、精検を受診していても不適切な精検が行われたもの。または、精検未受診が判明している者。

追跡調査対象者

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回収数 (%)
		詳細把握 (b) **	がん以外 (c) ***	その他 (d) ****		
総 数	0	-	-	-	-	(0.0)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。（精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む）

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者。

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者。

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等。

2] 検診での細胞診結果と発見がん数

細胞診結果 (ベセスダシステム)	標本の適否		NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno- carcinoma
	適正	不適正									
	1,397	0	1,359	27	0	6	5	0	0	0	0
要 精 検 者 数	38	-	-	27	-	6	5	-	-	-	-
精 検 受 診 者 数	31	-	-	23	-	4	4	-	-	-	-
発 見 がん 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
19 歳 以下	0	- (-)	- (-)	- (-)
20 ~ 24 歳	5	0 (0.0)	- (-)	- (-)
25 ~ 29 歳	11	3 (27.3)	1 (33.3)	0 (0.00)
30 ~ 34 歳	49	2 (4.1)	2 (100.0)	0 (0.00)
35 ~ 39 歳	35	1 (2.9)	1 (100.0)	0 (0.00)
40 ~ 44 歳	114	3 (2.6)	2 (66.7)	0 (0.00)
45 ~ 49 歳	113	6 (5.3)	6 (100.0)	0 (0.00)
50 ~ 54 歳	66	3 (4.5)	2 (66.7)	0 (0.00)
55 ~ 59 歳	140	3 (2.1)	2 (66.7)	0 (0.00)
60 ~ 64 歳	248	6 (2.4)	5 (83.3)	0 (0.00)
65 ~ 69 歳	310	8 (2.6)	8 (100.0)	0 (0.00)
70 ~ 74 歳	223	2 (0.9)	2 (100.0)	0 (0.00)
75 ~ 79 歳	65	0 (0.0)	- (-)	- (-)
80 歳 以上	18	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.00)
総 数	1,397	38 (2.7)	31 (81.6)	0 (0.00)

* 発見がん追跡の対象者は0人であったため追跡調査は実施しなかった。
調査内訳・初回、非初回別実施状況表は割愛した。

4 まとめ

平成29年度の発見子宮頸がん追跡調査の結果、HPV併用方式で8人（早期がん6人 進行がん2人）、ASC-US時HPV追加方式で12人（早期がん8人 進行がん4人）がんが確定された。細胞診のみの方式では発見がんは0人であった。がん発見率は、HPV併用方式で0.09%、ASC-US時HPV追加方式で0.04%であり、HPV併用方式のがん発見率が高かった。また2方式とも初回受診・39歳以下のがん発見率が高かった。

発見子宮頸がんの組織型は、HPV併用方式で発見された8人のうち扁平上皮系が5人、腺系が3人であった。またASC-US時HPV追加方式では発見された12人中扁平上皮系が11人、腺系が1人であった。

治療法の手術方式別では、HPV併用方式で早期がん6人のうち子宮頸部円錐切除術が4人、ASC-US時HPV追加方式では早期がん8人すべて子宮頸部円錐切除術であった。早期がんで発見することにより、侵襲性の少ない術式で治療が実施されていた。

HPV併用方式は、がん発見率・早期がん率ともにASC-US時HPV追加方式より高い傾向があった。HPV併用方式は早期発見、早期治療に有用と思われ、HPV-DNA検査を取り入れることにより精度の高い検診が実施できると考えられる。

当施設における子宮頸がん検診の成績と事業評価指標値との比較は、付表の通りである。追跡調査の結果、がん発見率はHPV併用方式で許容値を上回っていたが、ASC-US時HPV追加方式と細胞診のみの方式は、許容値を満たしていなかった。要精検率及び陽性反応適中度は、HPV併用方式、ASC-US時HPV追加方式、細胞診のみの方式の3方式ともに、許容値を満たしていなかった。精検受診率は、3方式とも許容値を満たしていたが、目標値は満たしていなかった。ベセスダシステム導入に伴い、ASC-US判定が増えたことにより、要精検率と陽性反応適中度等は許容値を満たしていない値になっているのが現状である。今後は、ベセスダシステムに準拠した新たながん検診事業評価指標値が必要と考える。

付表 がん検診事業評価指標との比較

		受診者数	要精検者数 (%)	精検受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
事業団 平成29年度	HPV併用	8,556	489 (5.7)	(86.1)	8 (0.09)	(1.6)
	ASC-US時HPV追加	29,760	608 (2.0)	(80.6)	12 (0.04)	(2.0)
	細胞診のみ	1,397	38 (2.7)	(81.6)	0 (0.00)	(0.0)
事業団 平成28年度	HPV併用	7,146	322 (4.5)	(92.9)	4 (0.06)	(1.2)
	ASC-US時HPV追加	31,741	623 (2.0)	(87.8)	13 (0.04)	(2.1)
	細胞診のみ	1,438	26 (1.8)	(100.0)	0 (0.00)	(0.0)
事業団 平成27年度	HPV併用	11,446	375 (3.3)	(90.1)	10 (0.09)	(2.7)
	ASC-US時HPV追加	31,062	519 (1.7)	(89.4)	12 (0.04)	(2.3)
	細胞診のみ	1,597	16 (1.0)	(87.5)	1 (0.06)	(6.3)
がん検診事業 評価指標	許容値		1.4%以下	70.0%以上	0.05%以上	4.0%以上
	目標値			90.0%以上		

平成29年度 出張型住民健診における発見乳がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

本調査票では、マンモグラフィをMG、超音波検査をUS、視触診検査をCBEと表記する。

1 検診実施状況

1] 検診方式別実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)
MG + US	43,805	1,702 (3.9)
MG + CBE	1,113	87 (7.8)
US	6,249	284 (4.5)
CBE	94	1 (1.1)
総 数	51,261	2,074 (4.0)

2] 年齢別実施状況

	39歳以下 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70歳以上 (%)
MG + US	1,082 (2.5)	9,143 (20.9)	8,608 (19.7)	15,409 (35.2)	9,563 (21.8)
MG + CBE	5 (0.4)	223 (20.0)	207 (18.6)	442 (39.7)	236 (21.2)
US	5,940 (95.1)	151 (2.4)	46 (0.7)	45 (0.7)	67 (1.1)
CBE	84 (89.4)	6 (6.4)	1 (1.1)	2 (2.1)	1 (1.1)
総 数	7,111 (13.9)	9,523 (18.6)	8,862 (17.3)	15,898 (31.0)	9,867 (19.2)

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*									*結 果 未 把 握	*精 検 未 受 診	総 数
	早 期 が ん	進 行 が ん	が ん 疑 い	線 維 線 種	乳 腺 症	乳 嚢 胞	乳 管 内 乳 頭 腫	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し			
総 数	85	16	40	337	443	237	63	85	496	270	2	2,074

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明なもの。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

*** 精検未受診とは、精検を受診していても不適切な精検が行われたもの。または、精検未受診が判明している者。

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調査除外内訳			追加調査 (e)*****	調査数 (a-(b+c+d)+e)	回収数(%)
		詳細把握 (b)**	がん以外 (c)***	その他 (d)****			
総数	163	2	3	5	1	154	151 (98.1)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果を把握できた者

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることを把握できた者

**** その他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明したが精検医療機関が不明な者等

***** 追加調査：精密検査結果連絡票ではその他の疾患であったが、その後がんと判明した者

2] 調査結果内訳（調査回収数及び調査前に発見がんの詳細を把握していた数を併せた詳細）

	発見がん			良性(%)	経過観察 (%)	異常なし (%)	未確定 (%)	追跡不能 (%)
	早期(%)	進行(%)	不明(%)					
総数	93 (60.8)	25 (16.3)	3 (2.0)	13 (8.5)	14 (9.2)	1 (0.7)	4 (2.6)	0 (0.0)

3] 検診方式別調査結果内訳

	発見がん			良性	経過 観察	異常 なし	未確定	追跡 不能
	早期	進行	不明					
MG+US	85	24	3	10	14	1	2	0
MG+CBE	4	0	0	0	0	0	0	0
US	4	1	0	3	0	0	2	0

4] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数(%)	精検受診者数(%)	発見がん数(%)
29歳以下	230	17 (7.4)	15 (88.2)	0 (0.00)
30～34歳	2,682	133 (5.0)	115 (86.5)	2 (0.07)
35～39歳	4,199	234 (5.6)	205 (87.6)	3 (0.07)
40～44歳	5,081	382 (7.5)	330 (86.4)	17 (0.33)
45～49歳	4,442	281 (6.3)	254 (90.4)	14 (0.32)
50～54歳	3,966	170 (4.3)	143 (84.1)	9 (0.23)
55～59歳	4,896	156 (3.2)	132 (84.6)	12 (0.25)
60～64歳	6,857	215 (3.1)	197 (91.6)	24 (0.35)
65～69歳	9,041	235 (2.6)	208 (88.5)	19 (0.21)
70～74歳	5,777	140 (2.4)	126 (90.0)	12 (0.21)
75～79歳	3,005	68 (2.3)	59 (86.8)	7 (0.23)
80歳以上	1,085	43 (4.0)	34 (79.1)	2 (0.18)
総数	51,261	2,074 (4.0)	1,818 (87.7)	121 (0.24)

5] 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類	発見数 (%)	
早期	0 (Tis) 18 (14.9)	(76.9)
	I 75 (62.0)	
	II A 17 (14.0)	
	II B 5 (4.1)	
進行	III A 1 (0.8)	(20.7)
	III B 1 (0.8)	
	III C 1 (0.8)	
不明	3 (2.5)	
総数	121	

※両側乳がん4人あり、Stageの高い方に計上

6] 組織学的分類別発見数

組織学的分類	発見数 (%)
非浸潤性乳管癌	22 (18.2)
乳頭腺管癌	28 (23.1)
浸潤性充実腺管癌	7 (5.8)
乳管癌硬癌	30 (24.8)
亜型不明	21 (17.4)
粘液癌	3 (2.5)
浸潤性小葉癌	4 (3.3)
アポクリン癌	1 (0.8)
特殊型髓様癌	1 (0.8)
浸潤性微小乳頭癌	1 (0.8)
その他	2 (1.7)
不明・未記入	1 (0.8)
総数	121

※両側乳がん4人あり、Stageの高い方、腫瘍径・浸潤径の大きい方に計上

4 検診方式別実施状況

1] MG+US併用方式 (MGはMLO1方向撮影、クーポン券利用の40歳代は原則2方向撮影)

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	検査別要精検者数 (%)		精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
			MG	US		
29歳以下	2	0 (0.0)	- (-)	- (-)	- (-)	0 (0.00)
30~34歳	221	19 (8.6)	11 (5.0)	8 (3.6)	16 (84.2)	0 (0.00)
35~39歳	859	91 (10.6)	61 (7.1)	42 (4.9)	83 (91.2)	1 (0.12)
40~44歳	4,844	359 (7.4)	189 (3.9)	209 (4.3)	312 (86.9)	17 (0.35)
45~49歳	4,299	267 (6.2)	148 (3.4)	159 (3.7)	243 (91.0)	14 (0.33)
50~54歳	3,867	160 (4.1)	85 (2.2)	88 (2.3)	133 (83.1)	9 (0.23)
55~59歳	4,741	145 (3.1)	89 (1.9)	74 (1.6)	124 (85.5)	10 (0.21)
60~64歳	6,620	200 (3.0)	124 (1.9)	101 (1.5)	184 (92.0)	22 (0.33)
65~69歳	8,789	222 (2.5)	139 (1.6)	113 (1.3)	197 (88.7)	18 (0.20)
70~74歳	5,570	132 (2.4)	75 (1.3)	73 (1.3)	119 (90.2)	12 (0.22)
75~79歳	2,931	66 (2.3)	38 (1.3)	34 (1.2)	57 (86.4)	7 (0.24)
80歳以上	1,062	41 (3.9)	22 (2.1)	25 (2.4)	33 (80.5)	2 (0.19)
総数	43,805	1,702 (3.9)	981 (2.2)	926 (2.1)	1,501 (88.2)	112 (0.26)

*検査別要精検者数については総合判定後の内訳

(2) 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類	発見数 (%)
早期 0 (Tis)	16 (14.3)
I	69 (61.6)
II A	16 (14.3)
II B	5 (4.5)
進行 III A	1 (0.9)
III B	1 (0.9)
III C	1 (0.9)
不明	3 (2.7)
総数	112

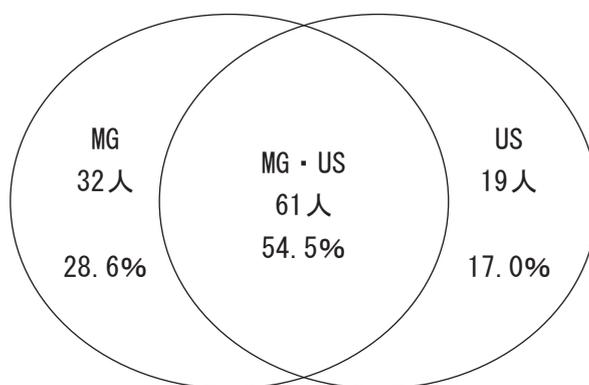
※両側乳がん4人あり、Stageの高い方に計上

(3) 組織学的分類別発見数

組織学的分類	発見数 (%)
非浸潤性乳管癌	20 (17.9)
乳頭腺管癌	26 (23.2)
浸潤性充実腺管癌	6 (5.4)
乳管癌硬癌	26 (23.2)
亜型不明	21 (18.8)
粘液癌	3 (2.7)
浸潤性小葉癌	4 (3.6)
アポクリン癌	1 (0.9)
特殊型 髓様癌	1 (0.9)
浸潤性微小乳頭癌	1 (0.9)
その他	2 (1.8)
不明・未記入	1 (0.9)
総数	112

※両側乳がん4人あり、Stageの高い方、腫瘍径・浸潤径の大きい方に計上

(4) 検査方法別発見がん内訳



(5) 手術方法

切除範囲	乳房部分切除術	乳房切除術	皮膚温存乳房切除術 (SSM)	乳頭温存乳房切除術 (NSM)	不明
総数	73	33	2	1	3

*両側乳がんが4人いるが、手術方法は左右同じであった

(6) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

		MG		US		総数	
実施人数						43,805	
発見がん数 (%)		93	(0.21)	80	(0.18)	112	(0.26)
総合判定前	要精検者数 (%)	1,464	(3.3)	937	(2.1)	2,195	(5.0)
	陽性反応適中度 (%)	6.4		8.5		5.1	
総合判定後	要精検者数 (%)	981	(2.2)	926	(2.1)	1,702	(3.9)
	陽性反応適中度 (%)	9.5		8.6		6.6	

(7) 初回・非初回別実施状況

※ 平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も乳がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上乳がん検診を受診している者

1) 検査方法別要精検率内訳

	初回 (16.2%)					非初回 (83.8%)				
	受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)		受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)			
			MG	US			MG	US		
29歳以下	2	0 (0.0)	0.0	0.0	0	- (-)	(-)	(-)		
30～34歳	124	11 (8.9)	4.8	4.0	97	8 (8.2)	(5.2)	(3.1)		
35～39歳	276	35 (12.7)	6.5	7.6	583	56 (9.6)	(7.4)	(3.6)		
40～44歳	1,289	184 (14.3)	8.4	7.4	3,555	175 (4.9)	(2.3)	(3.2)		
45～49歳	928	132 (14.2)	9.5	7.7	3,371	135 (4.0)	(1.8)	(2.6)		
50～54歳	753	78 (10.4)	7.3	4.4	3,114	82 (2.6)	(1.0)	(1.8)		
55～59歳	751	70 (9.3)	6.7	4.4	3,990	75 (1.9)	(1.0)	(1.0)		
60～64歳	1,042	98 (9.4)	6.9	4.2	5,578	102 (1.8)	(0.9)	(1.0)		
65～69歳	968	74 (7.6)	5.8	2.9	7,821	148 (1.9)	(1.1)	(1.1)		
70～74歳	591	55 (9.3)	6.4	4.6	4,979	77 (1.5)	(0.7)	(0.9)		
75～79歳	269	19 (7.1)	5.6	2.6	2,662	47 (1.8)	(0.9)	(1.0)		
80歳以上	106	11 (10.4)	8.5	6.6	956	30 (3.1)	(1.4)	(1.9)		
総 数	7,099	767 (10.8)	7.3	5.2	36,706	935 (2.5)	(1.3)	(1.5)		

*検査方法別要精検率については総合判定後の内訳

2) 初回、非初回別病期分類内訳

病期分類	初回：受診者数 /発見率(%)* 7,099/(0.70)		非初回：受診者数 /発見率(%)* 36,706/(0.17)		総数：受診者数 /発見率(%)* 43,805/(0.26)	
	発見数(%)		発見数(%)		発見数(%)	
早期	0	5 (10.0) (72.0)	11 (17.7) (79.0)	16 (14.3)		
	I	31 (62.0)	38 (61.3)	69 (61.6)		
進行	II A	6 (12.0)	10 (16.1)	16 (14.3)		
	II B	3 (6.0)	2 (3.2)	5 (4.5)		
	III A	1 (2.0) (24.0)	0 (0.0) (19.4)	1 (0.9) (21.4)		
	III B	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (0.9)		
	III C	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (0.9)		
不 明	2 (4.0)	1 (1.6)	3 (2.7)			
総 数	50	62	112			

*発見率は未記入、不明のものもすべて含む

2] MG+CBE併用方式 (MGはMLO1方向撮影、40歳代は全員2方向撮影)

(1) 年齢別検診実施状況

受診者数	要精検 者数(%)	検査方法別要精検者数(%)		精検 受診者数(%)	発見 がん数(%)
		MG	CBE		
29歳以下	0	- (-)	- (-)	- (-)	-
30～34歳	0	- (-)	- (-)	- (-)	-
35～39歳	5	0 (0.0)	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
40～44歳	109	19 (17.4)	18 (16.5)	15 (78.9)	0 (0.00)
45～49歳	114	13 (11.4)	12 (10.5)	10 (76.9)	0 (0.00)
50～54歳	77	9 (11.7)	9 (11.7)	9 (100.0)	0 (0.00)
55～59歳	130	11 (8.5)	10 (7.7)	8 (72.7)	2 (1.54)
60～64歳	214	15 (7.0)	13 (6.1)	13 (86.7)	2 (0.93)
65～69歳	228	11 (4.8)	7 (3.1)	10 (90.9)	0 (0.00)
70～74歳	171	7 (4.1)	6 (3.5)	6 (85.7)	0 (0.00)
75～79歳	51	2 (3.9)	0 (0.0)	2 (100.0)	0 (0.00)
80歳以上	14	0 (0.0)	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
総 数	1,113	87 (7.8)	75 (6.7)	73 (83.9)	4 (0.36)

(2) 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類	発見数 (%)
早期 0 (Tis)	1 (100.0)
I	3
総数	4

(3) 組織学的分類別発見数

組織学的分類	発見数 (%)
非浸潤性乳管癌	1 (25.0)
乳頭腺管癌	1 (25.0)
浸潤性乳管癌 充実腺管癌	1 (25.0)
硬癌	1 (25.0)
総数	4

(4) 手術方法

切除範囲	乳房部分切除術	乳房切除術
総数	3	1

(5) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
MG	1,113	75	4 (0.36)	(5.33)
CBE		16	1 (0.09)	(0.09)

(6) 初回、非初回別実施状況

※ 平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も乳がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上乳がん検診を受診している者

1) 検査方法別要精検率内訳

	初回 (56.6%)					非初回 (43.4%)				
	受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)		受診者数	要精検者数 (%)	検査方法別要精検率 (%)			
			MG	CBE			MG	CBE		
29歳以下	0	- (-)	-	-	0	- (-)	-	-		
30～34歳	0	- (-)	-	-	0	- (-)	-	-		
35～39歳	4	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)	1	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
40～44歳	76	17 (22.4)	(21.1)	(2.6)	33	2 (6.1)	(6.1)	(0.0)		
45～49歳	77	10 (13.0)	(11.7)	(2.6)	37	3 (8.1)	(8.1)	(0.0)		
50～54歳	51	9 (17.6)	(17.6)	(2.0)	26	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
55～59歳	90	11 (12.2)	(11.1)	(2.2)	40	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
60～64歳	133	13 (9.8)	(8.3)	(1.5)	81	2 (2.5)	(2.5)	(0.0)		
65～69歳	106	8 (7.5)	(5.7)	(1.9)	122	3 (2.5)	(0.8)	(1.6)		
70～74歳	75	5 (6.7)	(6.7)	(0.0)	96	2 (2.1)	(1.0)	(1.0)		
75～79歳	16	2 (12.5)	(0.0)	(12.5)	35	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
80歳以上	2	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)	12	0 (0.0)	(0.0)	(0.0)		
総数	630	75 (51.9)	(10.5)	(2.1)	483	12 (2.5)	(1.9)	(0.6)		

2) 病期分類別内訳

病期分類	初回：受診者数 / 発見率 (%)		非初回：受診者数 / 発見率 (%)		総数：受診者数 / 発見率 (%)	
	発見数 (%)		発見数 (%)		発見数 (%)	
		630/(0.63)	483/(0.00)		1,113/(0.36)	
早期	0	1 (25.0)	0 (0.0)		1 (25.0)	
	I	3 (75.0)	0 (0.0)		3 (75.0)	
総数		4	0		4	

3] US法

※ 主に30代のUS単独検診と、40歳以上で当施設が定める禁忌事項に当てはまりMG撮影が出来なかった受診者

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
29歳以下	226	17 (7.5)	15 (88.2)	0 (0.00)
30～34歳	2,412	114 (4.7)	99 (86.8)	2 (0.08)
35～39歳	3,302	143 (4.3)	122 (85.3)	2 (0.06)
40～44歳	125	4 (3.2)	3 (75.0)	0 (0.00)
45～49歳	26	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
50～54歳	22	1 (4.5)	1 (100.0)	0 (0.00)
55～59歳	24	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
60～64歳	23	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
65～69歳	22	2 (9.1)	1 (50.0)	1 (4.55)
70～74歳	35	1 (2.9)	1 (100.0)	0 (0.00)
75～79歳	23	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
80歳以上	9	2 (22.2)	1 (50.0)	0 (0.00)
総数	6,249	284 (4.5)	243 (85.6)	5 (0.08)

(2) 臨床病期 (Stage) 分類別発見数

臨床病期分類	発見数 (%)
早期 0 (Tis)	1 (20.0)
I	3 (60.0)
進行 II A	1 (20.0)
総数	5

(3) 組織学的分類別発見数

組織学的分類	発見数 (%)
非浸潤性乳管癌	1 (20.0)
浸潤性乳頭腺管癌	1 (20.0)
乳管癌 硬癌	3 (60.0)
総数	5

(4) 手術方法

切除範囲	乳房部分切除術	乳房切除術	乳頭温存乳房 切除術 (NSM)	不明
総数	2	1	1	1

(5) 検査方法別発見率及び陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
US	6,249	284	5 (0.08)	(1.8)

(6) 40歳未満に限定した陽性反応適中度

	受診者数	要精検者数	発見がん数 (%)	陽性反応適中度 (%)
US	5,940	274	4 (0.07)	(1.5)

4] CBE法

※ U市の30代と、40歳以上で当施設が定める禁忌事項に当てはまりMG撮影が出来なかった受診者

(1) 年齢別検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
29歳以下	2	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
30～34歳	49	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
35～39歳	33	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
40～44歳	3	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
45～49歳	3	1 (33.3)	1 (100.0)	0 (0.00)
50～54歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
55～59歳	1	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
60～64歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
65～69歳	2	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
70～74歳	1	0 (0.0)	- (-)	0 (0.00)
75～79歳	0	- (-)	- (-)	- (-)
80歳以上	0	- (-)	- (-)	- (-)
総数	94	1 (1.1)	1 (100.0)	0 (0.00)

5 まとめ

平成29年度の受診者数は51,261人であり、平成28年度の50,308人から引き続き増加している。追跡調査票の回収率は98.1%と平成28年度の94.8%から増加した。発見がん数は121人であった。要精検率4.0%、精検受診率87.7%、がん発見率0.24%、陽性反応適中度5.8%であり、がん検診事業評価指数の許容値を満たしていた。

MG + US併用方式の受診者数は43,805人で、当施設では乳がん検診の85.5%を占めている。発見がん数は112人であった。要精検率3.9%、精検受診率88.2%、がん発見率0.26%、陽性反応適中度6.6%であり、がん検診事業評価指数の許容値を満たしていた。MGとUS両方で指摘し発見されたがんは61人54.5%、USのみで発見されたがんが19人17.0%、MGのみで発見されたがんは32人28.6%であった。

平成29年度より分離併用総合判定方式を導入した。そのため、検査別要精検者数の集計は総合判定後の値を記載したが、集計方法についての検討が必要である。総合判定の対象となったのは2,195人5.0%であり、総合判定後1,702人3.9%が要精検となった。平成28年度がん発見率0.24%、要精検率4.5%から、平成29年度がん発見率0.26%、要精検率3.9%と、期待していた通り、がん発見率は維持しつつ要精検率を下げる事が出来た。来年度以降も、精度が維持できるか注視したい。

MG+CBE併用方式の受診者数は1,113人であり、がん発見数は4人でがん発見率0.36%であった。

US単独方式の受診者数は6,249人であり、がん発見数は5人でがん発見率0.08%であった。

CBE単独方式では、前年度同様、乳がんの発見はなかった。

付表 がん検診事業評価指標との比較

	受診者数	要精検者数 (%)	精検 受診率 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適中度 (%)
事業団 平成29年度	51,261	2,074 (4.0)	(87.7)	121 (0.24)	(5.8)
事業団 平成28年度	50,308	2,281 (4.5)	(89.5)	109 (0.22)	(4.8)
事業団 平成27年度	48,631	2,856 (5.9)	(90.4)	111 (0.23)	(3.9)
がん検診 事業評価指数	許容値	11.0%以下	80.0%以上	0.23%以上	2.5%以上
	目標値		90.0%以上		

※ 乳がん検診の要精検率、がん発見率、陽性反応適中度は参考値とする

平成29年度 出張型住民健診における発見前立腺がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 検診実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)
総数	27,029	2,240 (8.3)

※ 年齢階層別PSA基準値 (64歳以下：3.0ng/mL以上、65歳～69歳：3.5ng/mL以上、70歳以上：4.0ng/mL以上)

2 精検結果内訳

	精 検 受 診*							*結 果 未 把 握	総 数
	早 期 が ん	進 行 が ん	が ん 疑 い	前 立 腺 肥 大 症	前 立 腺 炎	そ の 他 の 疾 患	異 常 な し		
総数	74	15	451	488	31	17	392	772	2,240

* 精検受診とは、医療機関より精検結果の報告があった者。または、要精検者からの報告で精検日・精検法・精検結果・精検医療機関の4項目が揃っている者。

** 精検未把握とは、精検受診の有無が不明な者。または精検を受診していても精検結果が正確に分からない者。

3 発見がん追跡調査結果

1] 調査状況

	追跡調査 対象者数 (a)*	調 査 除 外 内 訳			調 査 数 (a-(b+c+d))	回 収 数 (%)
		詳細把握 (b) **	がん以外 (c) ***	その他 (d) ****		
総数	602	9	0	2	591	575 (97.3)

* 追跡調査対象者数：精密検査結果でがん又はがん疑いと報告を受けた者。(精検未把握者のうちがん又はがん疑いの者を含む)

** 詳細把握：発見がん追跡調査前に、がんと判明しかつその詳細結果が把握できた者

*** がん以外：発見がん追跡調査前に、がん以外の疾患であることが把握できた者

**** そ の 他：初回調査及び再調査実施後、新たに医療機関よりがん又はがん疑いと精検結果の報告を受け、今回の調査期間中に調査を実施出来なかった者やがんと判明しているものの精検医療機関が不明な者等

2] 調査結果内訳

	発 見 が ん			そ の 他 の 疾 患 (%)	異 常 を 認 め ず (%)	経 過 観 察 (%)	未 確 定 (%)
	早期 (%)	進行 (%)	不明 (%)				
総数	145 (25.2)	24 (4.2)	9 (1.6)	80 (13.9)	55 (9.6)	251 (43.7)	11 (1.8)

3] 発見がん内訳

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)
39歳以下	27	0 (0.0)	- -	0 (0.00)
40～44歳	312	5 (1.6)	3 (60.0)	0 (0.00)
45～49歳	373	7 (1.9)	4 (57.1)	0 (0.00)
50～54歳	1,409	46 (3.3)	29 (63.0)	1 (0.07)
55～59歳	1,872	92 (4.9)	58 (63.0)	4 (0.21)
60～64歳	3,850	318 (8.3)	215 (67.6)	10 (0.26)
65～69歳	7,633	659 (8.6)	430 (65.3)	66 (0.86)
70～74歳	5,633	463 (8.2)	319 (68.9)	38 (0.67)
75～79歳	3,771	355 (9.4)	250 (70.4)	38 (1.01)
80歳以上	2,149	295 (13.7)	218 (73.9)	21 (0.98)
総数	27,029	2,240 (8.3)	1,526 (68.1)	178 (0.66)

4] 臨床病期(ABCD分類)別発見数

ABCD分類	発見数 (%)
B0	26 (14.6)
B1	87 (48.9)
B2	32 (18.0)
C1	17 (9.6)
C2	1 (0.6)
D1	1 (0.6)
D2	5 (2.8)
不明	9 (5.1)
総数	178 (100.0)

5] 臨床病期(T分類)別発見数

T分類	発見数 (%)
T1c	38 (21.3)
T2a	79 (44.4)
T2b	13 (7.3)
T2c	21 (11.8)
T3a	18 (10.1)
T3b	2 (1.1)
Tx	2 (1.1)
不明	5 (2.8)
総数	178 (100.0)

(1) T分類別による所属リンパ節への転移 (N) 及び遠隔転移 (M) の内訳

臨床病期 分類	発見数	所属リンパ節転移 (N)				遠隔転移 (M)			
		N0	N1	NX	不明	M0	M1	MX	不明
T1c	38	38	0	0	0	38	0	0	0
T2a	79	73	0	2	4	71	1	3	4
T2b	13	12	0	1	0	12	0	1	0
T2c	21	21	0	0	0	20	1	0	0
T3a	18	16	2	0	0	17	1	0	0
T3b	2	1	1	0	0	1	1	0	0
Tx	2	2	0	0	0	1	1	0	0
不 明	5	0	0	0	5	0	0	0	5
総 計	178	163	3	3	9	160	5	4	9

6] Gleasonスコア別発見数

Gleasonスコア	発見数 (%)
6	31 (17.4)
7	86 (48.3)
8	35 (19.7)
9	16 (9.0)
10	2 (1.1)
不 明	8 (4.5)
総 数	178 (100.0)

7] 治療法別発見数

治 療 法	発見数 (%)
監 視 療 法	9 (5.1)
内 分 泌 療 法	48 (27.0)
内分泌療法、手術療法	6 (3.4)
内分泌療法、放射線療法	21 (11.8)
手 術 療 法	64 (36.0)
放 射 線 療 法	20 (11.2)
不 明	10 (5.6)
総 数	178 (100.0)

8] 初回、非初回別実施状況

※ 平成29年度地域保健・健康増進事業報告より、

初 回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回も前立腺がん検診を受診していない者

非初回：当該年度を含まない過去3年間のうち、1回以上前立腺がん検診を受診している者

(1) 実施状況

	受診者数	要精検者数 (%)	精検受診者数 (%)	発見がん数 (%)	陽性反応 適 中 度 (%)
初 回	4,644	432 (9.3)	300 (69.4)	51 (1.10)	(11.8)
非初回	22,385	1,808 (8.1)	1,226 (67.8)	127 (0.57)	(7.0)
総 数	27,029	2,240 (8.3)	1,526 (68.1)	178 (0.66)	(8.0)

(2) 臨床病期 (ABCD分類)

ABCD分類	初 回		非初回	
	発見数 (%)		発見数 (%)	
	B0	4	22	
早 期	B1	22 (83.3)	65 (86.8)	
	B2	14	18	
	C1	7	10	
進 行	C2	0 (16.7)	1 (13.2)	
	D1	0	1	
	D2	1	4	
	不 明	3	65	
総 数	51	127		

(3) Gleasonスコア

1) 早期がん

初 回		非 初 回	
Gleasonスコア別発見数 (%)		Gleasonスコア別発見数 (%)	
6以下	5 (12.5)	6以下	23 (21.9)
7以上	34 (85.0)	7以上	81 (77.1)
不明	1 (2.5)	不明	1 (1.0)
総数	40	105	

2) 進行がん

初 回		非 初 回	
Gleasonスコア別発見数 (%)		Gleasonスコア別発見数 (%)	
6以下	0 (0.0)	6以下	1 (6.3)
7以上	7 (87.5)	7以上	13 (81.3)
不明	1 (12.5)	不明	2 (12.5)
総数	8	16	

(4) 初回のうち進行がんであった8人の精検結果状況

ABCD分類	検診時 P S A値	Gleasonスコア	TNM分類
C1	4.6	8	T3a, N0, M0
C1	5.2	7	T3a, N0, M0
C1	19.7	7	T3a, N0, M0
C1	20.8	10	T3a, N0, M0
C1	32.9	8	T3a, N0, M0
C1	39.9	8	T3a, N0, M0
C1	123.0	9	T3a, N0, M0
D2	148.0	不明	Tx, N0, M1

(5) 非初回のうち進行がんであった16人のH29年度と前回受診年度の検診及び精検結果状況

ABCD 分 類	H29年度受診			前回受診結果		
	検診時 P S A値	Gleason スコア	TNM分類	受診 年度	検診時 P S A値	精検結果
C1	4.6	不明	不明, 不明, 不明	H28	1.0 (異常なし)	—
C1	4.7	7	T3a, N0, M0	H28	4.0 (異常なし)	—
C1	5.4	7	T3a, N0, M0	H28	4.3	異常なし
C1	6.0	8	T2c, N0, M0	H28	4.4	精検未受診
C1	6.2	7	T3a, N0, M0	H28	4.8	前立腺肥大症
C1	6.9	9	T3a, N0, M0	H28	3.7 (異常なし)	—
C1	7.6	8	T3a, N0, M0	H28	4.3	異常なし
C1	7.7	6	T3a, N0, M0	H28	6.5	前立腺肥大症
C1	8.6	8	T3a, N0, M0	H28	6.6	経過観察
C1	23.4	不明	T3a, N0, M0	H28	14.9	経過観察
C2	5.0	8	T3b, N0, M0	H28	3.3 (異常なし)	—
D1	6.1	10	T3a, N1, M0	H28	2.9 (異常なし)	—
D2	4.1	7	T2a, N0, M1	H28	3.8 (異常なし)	—
D2	4.4	8	T3a, N0, M1	H27	2.1 (異常なし)	—
D2	6.9	7	T2c, N0, M1	H28	3.2 (異常なし)	—
D2	13.0	9	T3b, N1, M1	H28	0.5 (異常なし)	—

(6) 非初回86人の前回受診結果と精検受診の状況

	発見がん数	前回受診結果	
		異常を認めず	要精検（精検未受診）
早期	105	50	55 (20)
進行	16	9	7 (1)
不明	6	1	5 (1)
総数	127	60	67 (22)

4 まとめ

今回の発見前立腺がん追跡調査結果では、178人のがんが確定され、全体のがん発見率は0.66%であった。年齢別にはがん発見率をみると、50歳以上から加齢とともに上昇傾向を示していた。

発見がん178人の臨床病期（ABCD分類）は、早期がんである病期B群が多く、B0が26人（14.6%）、B1が87人（48.9%）、B2が32人（18.0%）であり、全体の81.5%を占めていた。また、臨床病期TNM分類のうち原発腫瘍の深達度を分類するT分類では、がんが前立腺内にとどまっているT1c、T2a、T2b、T2cが多く、全体の151人（84.8%）であった。

組織学的悪性度の指標であるGleasonスコアでは、スコア6以下の病理組織学的に低悪性度群が31人（17.4%）、スコア7の中間群が86人（48.3%）、高悪性度群であるスコア8以上は53人（29.8%）であった。

初回受診と非初回受診別にみた実施状況では、要精検率は初回受診群9.3%、非初回受診群8.1%、がん発見率は初回受診群1.10%、非初回受診群0.57%、陽性反応適中度は初回受診群11.8%、非初回受診群7.0%であり、非初回受診群と比較して初回受診群の方が要精検率、がん発見率ともに有意（ $p < 0.05$ ）に高かった。臨床病期（ABCD分類）による早期がん割合の比較では、初回受診群83.3%、非初回受診群86.8%と、非初回受診群の方がやや高かったが有意な差は認められなかった。また、Gleasonスコアの比較では、早期がん、進行がんともに初回受診群、非初回受診群のGleasonスコア別発見割合に差は認められなかった。

また、非初回のうち進行がんであった16人に着目して前回受診年度の検診結果をみると、前回検診結果が「異常なし」であった者が16人中9人認められたが、9人のうち5人のGleasonスコアは、病理組織学的に高悪性度群であるスコア8以上であった。このことから、定期的に前立腺がん検診を受診し、要精検となった場合には、悪性度が高く進展の早いがんであることも考慮し、速やかに専門の精密検査医療機関を受診することが重要であると考えられた。さらに、非初回127人のうち前回検診結果が要精検であった者が67人で、そのうち22人が精検未受診者であったことから、要精検者への適切な精検受診勧奨が必要であると思われた。

今回発見された前立腺がんの約8割が早期がんであったが、Gleasonスコアでは、悪性度が中間群以上で積極的治療の対象となるスコア7以上が全体の約8割を占めていた。早期に発見された前立腺がんは治療法の選択肢も多く、根治の可能性があることから、要精検となった場合には、速やかに専門の精密検査医療機関を受診し、適切な診断・治療を受けることが重要であると考えられた。